

夜間保育

平成25年

8月19日 発行
2013-1

発行責任 全国夜間保育園連盟 会長 天久 薫
編集責任 大阪市東淀川区東淡路2-7-5 保育所あすなろ内
全国夜間保育園連盟事務局長 枝本信一郎
電話 06-6328-8183 Eメール info@zenyahoren.jp

2013年6月6日(木)に九州宮崎で開催された第56回全国私立保育園研究大会で、全国夜間保育園連盟が担当した第10分科会は、司会者の天久会長による基調提案から始まりました。

保育界全体が子どもの育ちの保障を優先し親の子育ての義務を言ってきたが、30年にわたる夜間保育園の歴史は、働く親の持つ「働きながら子育てをする」権利の保障を前提としての子どもの育ちの支援にあった。10数年前、安梅先生らにより全国の夜間保育園のすべての園児、すべての家庭について一般発達や社会性発達の調査をし、あるいは家庭での育児環境の調査

をした際、子どもの発達は育児環境の如何に大きく依拠し、夜間保育園利用児は一般の保育園利用児に比べてやや高い発達のリスクを持っているが、夜間保育園はこのような子どもを育ちを支えしている、との研究成果を得た。それ以来、安梅先生と共同し、園児とその育児環境の追跡研究を継続しつつ、親支援を含む保育内容の向上に向けた調査研究を積み重ねてきた。近年、親の就労形態がますます多様化する中で、親の生活の質が子

律に基づいて活動しています。しかし現実には、社会は少しずつ変動していきますから、法律でカバーできない隙間、制度や行政の谷間が生じます。そしてそこには、自分の力だけでは谷間から這い上がることの出来ない人たちが取り残されています。その人たちに、制度が整うまで手を差し伸べるのが本来の福祉の精神です。法律は、社会の変動を見ながら、後手後手に作られていきますから、法律より先行

第56回全国私立保育園研究大会宮崎大会

第10分科会基調提案

福祉の原点は「前例のない」ことをすること

全国夜間保育園連盟会長 天久 薫

どもの育ちを規定するとの前提に立ち保育をする必要がある。子どもの発達を保障するというのは昼も夜も変わらないが、何に(誰に)寄り添うのか、そのまなざしを検証したいとの提案であった。全国各地の認可夜間保育園は、それぞれの地域で夜間保育という先駆的役割を担ってきました。この「先駆的」という言葉は、言い換えれば前例のないことをするという意味です。

日本のような法治国家では、社会は法



する福祉活動は、制度行政にとって前例のないこととなります。現在、夜間保育所運営されている園の多くは、午後六時以降の延長保育も夜間にかかる深夜延長保育も、夜間学童保育も、制度のない頃に、従って補助金のないころから自主的に始められたものです。今後社会的状況を見ながら自分たちの出来る範囲で的確に保育需要に対応することが、全国夜間保育園連盟としての使命と考えています。そこを見極めて前例のないことを始めることこそ、福祉の原点といえるのではないのでしょうか。

【報告】

第56回全国私立保育園

研究大会宮崎大会

夜保連が第二群分科会10を担当しました。

テーマは「園で夕食を食べる延長・夜間保育利用児の育ちを支援する」

保護者の就労形態が多様化し、延長保育・夜間保育を利用して毎日「園で夕食を食べる子ども」が増えています。認可夜間保育園の長年の実践に照らして、その保育は特段の配慮が必要と実感しています。全国夜間保育園加盟園での長年の追跡研究を踏まえ、夜間に及ぶ保育に必要な保育内容と、その保育の成果について、熱心な討議が行われました。

参加者の殆どは、全国夜間保育園連盟加盟園で、すでに夜間保育を実践されている方々でしたが、長時間延長保育をされている昼間保育園や、夜間保育所の開所を望んでおられる園など、全国から沢山の方が参加されました。

【発題内容】

①「だん王夜間保育園」

中心に花を置き、かわいい柄のテーブルセンターを置くなど、異年齢の子どもたちがグループ毎に家庭的な雰囲気でも給食を食べられるよう環境づくりをし、色とりどりの野菜を使い鮮やかでカラフルな料理を作っている。温かい料理を暖かく食べられるよう配慮し、目からも暖かさが伝わるようしている。

昼だから、夜だからということ、特別扱いはせず「二食食べることで、食材が重ならないように気を配る。おやつも出来るだけ手作りで、子どもたちも参加できるようにしている。

だん王夜間保育園

栄養士 田村 幸太郎

②「みのり園」

家庭的でありながら家庭ではできない体験ということで、夜間クラス独自の食育の取組を行い、夜間クラスの生活を充実させることで夕食からそのあとの時間帯を主体的に楽しく過ごせるよう配慮している。

例えば夕食を食べながら昼間の太陽の大切さをおしゃべりする…、4ヶ月かけたかぼちゃ栽培の取り組み・黄色グループ「実がならんかった！何でやろ、同じように育てたのに…」

植物(いのち)を育てることの難しさや、喜び、不思議を感じていたのでしょうか

みのり園

保育士 小嶋 洋子

【夏ばて防止献立】

ネバネバうどん・ゆかりおにぎり・ピーマン佃煮



【かぼちゃの赤ちゃん】



【かぼちゃクッキング】

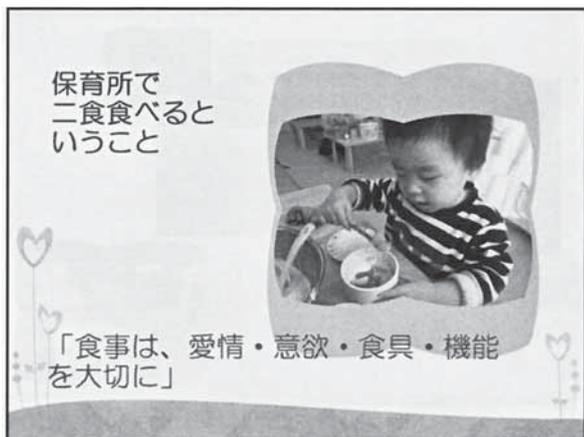
③【小倉北ふれあい保育所・夜間部】

乳幼児期には一緒に食べる人（食べさせる人）の人格が子どもに大きな影響を与える。保育士との信頼関係のもと、環境（空間・時間）を整え、発達に適した食事をするのが食べる喜びを育てると考え、食育として、食材に触れたり調理に関わったりする経験を毎月行い、季節ごとに日本の食文化に親しみ、また家庭での食事環境や事情への配慮、親子の調理体験、試食会等の機会を持っている

小倉北ふれあい保育所「夜間部」

主任保育士 酒井 初恵

【食事から教育を考える】



④【第2どころんこ夜間保育園】

Family well-being

家族が幸せでなければ、その子どもは幸せではないとして、子どもとその家族が、精神的、身体的、経済的、社会的文化的に自立するように支援することを根底に保育を行っている。子どもの生活リズムに合わせて登園時間帯別の縦割りクラスを編成し、食事や午睡、保育活動の時間帯をきめ細かく対応している。

第2どころんこ夜間保育園

主任保育士 久保 まり

Family well-being

これまで、こどもとその家族のために
これから、子どもとその家族のために
どころんこ保育園は、ひたすら、歩き続けます
子どもとその家族の幸せを願いながら…

これらの発題について、参加した保育士は「各園の夕食の様子や、夕食前後の過ごし方の発題では、どの園も食事にしても活動にしても、今までの実践した経験や発達をふまえた理論を積み重ねているので、とても説得力がありどこも向かう方向は同じなのだと感じた。」と報告している。

午後、助言者筑波大学大学院教授安梅勅江氏の講演では、夜間保育所の子どもたちの育ちを経年的に研究しているとした上で、その中で見えてきたことは、子どもたちが、信頼され認められているという自信を持つ中で、育っているということにあった。発題された園の皆様及びフロアの皆様の中でそのことが強く感じられましたと話され、この経年的研究により、要点は「エンパワメント」の言葉がキーになる保育が必要だとし、パワーポイントを駆使し、園児に関する個別の発達状況のデータや育児環境に関するデータを示しながら、これらの科学的根拠をもつて、個々の園児をエンパワメントする個別支援設計について分かりやすく説得力のある講演だった。安梅先生によると、エンパワメントは仲間として「きずなを育む力＝絆育力」とのこと。仲間を信頼しありのままを受容してもらおうこと

で安心して生活が出来るというお話は、これまでの夜間保育園の思いにもフィッとするものもあった。

この後、「開所が22時までの保育所」と「22時以降も開所している保育所」のグループに分かれての討議が行われた。ここの各グループの討議の内容は割愛するが、両グループともに、夜まで保育所に子どもを長時間預けることや、夕食を園で食べさせることについて、なるべくはそれを避けたい（避けるように助言したい）と保護者も保育士もジレンマに悩むが、それでは保護者は自分の子育てを「十分にできていない」と否定的にとらえることになり、結局は親も子どもエンパワメントできないことになる、との議論が行われたことは、当分科会を象徴する議論だったと思える。

最後にまとめとしての、「皆さんが保育のプロとして、子どもたちを受け止められていることがしなやかなところをもつ子どもを育てることになるでしょう。」の安梅先生の言葉に、参加者一同、明日からの保育に向けて励まされ、当分科会は散会した。

報告者 枝本 信一郎

【資料】

夜間保育の現況と課題

認可夜間保育園は、子どもの生きる権利、育つ権利、学ぶ権利及び保護者の働く権利、育てる権利を守るために長時間化、多様化する保育需要に対し、小規模ながら一日平均開所時間16時間30分、全国の認可保育園の先頭に立って奮闘している。

1. 昭和56年、劣悪な環境のベビーホテルで死亡事故が相次ぎ、ベビーホテルが社会問題化する。ベビーホテル対策として、また多様化する保育需要に対応するため、夜間保育が延長保育(午後7時



で)とともに創設される。当初保育時間で概ね午後2時から午後10時まで

2. *認可夜間保育園数…70数箇所、園児数…2300人程度【推定】 *ベビーホテル数…1597箇所、園児数…29、250人(全国…H20. 3)

3. 定員【全国平均38人】
 20人…3園 30人…33園
 40人…2園 50人…18園
 60人…5園 90人…1園

4. 現在の基本保育時間…午前11時から午後10時まで、前後に延長保育を設定し、

24時間保育も可能。
 加盟園62か園中、24時間保育が6か園(9.7%) 朝型延長保育が54か園【87%】
 深夜延長保育が38か園(61.3%)
 一日平均開所時間…16時間30分(開所時間11時間プラス延長保育5.5時間)
 *参考【全国保育所平均開所時間…11時間24分】(H20)

5. 夜間保育の三大特徴
 *単親家庭が多い
 *低所得階層が多い
 *長時間保育が多い
 …一方でキャリア型の母親も一定量存在



6. 夜間保育への加算
 加算保育単価…年額5、265、965円
 (給食2階提供・定員45名の場合)
 夜間保育推進事業…年額2、460、000円(但し自治体によって異なる)

7. 夜間保育の課題
 (1) 昼間保育の課題がより顕著に増幅されて夜間保育の課題となっている。
 (2) 夜間保育への子どもの影響に関する研究(註)に挙げられた課題。

(註)夜間保育への子どもの影響に関する研究(報告者 安梅勅江教授 日本保健福祉学会誌7-1 2000年)

第10分科会

助言者・安梅 あんめ ときえ 勅江先生の助言内容

夜間におよぶ長時間保育の「保育の質」と子どもの育ちへの長期的な効果：15年におよぶ追跡研究の科学的な根拠をもとに

I. 夜間におよぶ長時間保育の「保育の質」

全国夜間保育園連盟では、保育の質を向上するための継続的な取り組みを継続しています。その結果、「質の高い保育」を維持すれば、「夜間の保育が子ども成長・発達に悪影響を与えない」が「子ども成長発達に影響するのは養育者の養育態度が強く影響する」との研究結果が得られています（資料は夜保連HP参照）。

これらを踏まえ、今後さらに充実が必要となる、1）子育て支援と保護者支援の強化、2）特に夕食後の団欒時間に相当する時間の質の高い保育、などについて討論しました。

II. 学童期におよぶ質の高い保育の効果

夜間におよぶ長時間保育を経験した子どもと保護者197組について、卒園児

調査を行いました。文部科学省が実施した学童全国データとの比較、および卒園児本人の自由記述から明らかにされた、夜間保育における「質の高い保育の効果」は左記の5点です（資料は夜保連HP参照）。

1. 社会役割意識の醸成
人の役に立つ人になりたい
 2. 向社会性の育成
人の気持ちがわかる人になりたい、人には親切にしたい
 3. 意欲の増大
努力する人になりたい、勇気のある人になりたい、勉強のできる子になりたい
 4. 自己効力感の涵養
誠実でありたい、友達から人気のある子になりたい
 5. 本人の訴える夜間保育の教育効果
対人技術、意欲、学習力、生活力、集中力、心の豊かさ、体力などにポジティブな効果《中略》
- 「夜間保育の子どもへの影響に関する研究」〔資料部分抜粋〕
- (2)夜間保育における今後の課題
本研究より子どもの健やかな発達と子育てを支える『真に有効な保育サービ

ス』を目指し、今後更に充実が必要な課題として、左記の5項目が挙げられる。

- ①家庭の育児支援機能の補完及び保護者の育児意識の向上を支える役割として、夜間保育の充実化
- ②保護者のニーズに適応したサービスの提供
- ③良質な保育サービスを提供するための専門職の専門性の向上
- ④夜間保育に対する地域社会及び自治体の理解の促進
- ⑤さらなるサービスの質の向上を意図した評価システムの構築

《まとめ》

全国の夜間保育園を利用している子ども及び保護者、保育専門職を対象に夜間保育の子どもへの影響及び課題の検討を行った。その結果、子どもの発達状態には「保育の形態や時間帯」よりも「家庭における育児環境」及び「保護者の育児への自信やサポートの有無」などのあり方が明らかにされた。すなわち、夜間保育を含む多様なニーズに柔軟に対応し、育児に関するよき相談相手となり保護者の育児への自信の回復を促すなど、保護者に開かれたサービスの充実である。

加えて、客観的な評価に基づくサービスのさらなる質の向上を、継続的に可能とするシステムの構築が強く期待される場所である。



《参加者の感想》

●6月5日・6日・7日と二泊三日で職員（保育士2名・栄養士1名）と私で宮崎県で開催された全国私立保育園研究大会へ参加してきました。数ある分科会の中で、園で夕食を食べる延長保育・夜間保育利用児の育ちを支援するに参加。

我が全国夜間保育園連盟が始めて全私保連の中の分科会に参加するのです。なぜか東京を出発する前に全国の昼間運営している保育所の参加がどれだけあるのだろうか？と楽しみにしていました。分科会の名簿を見るとやはり夜間保育園連盟の先生方が多数でした。しかし、何箇所か他の先生方の顔も見られました。少々残念でしたが、少しずつでも全国の仲間が、夜間保育に興味を持ち、私たちの分科会に参加してくれたら嬉しいなと思いつつ、沢山の学習をして東京へと帰ってきました。

宮崎は土地柄、ゆつくりした温暖な地で、人を優しく包んでくれ、また食べ物も美味しかったです。マンゴーは高くて手を出せませんでした。一緒に参加した職員も力づけたと思います。

*東京・保育園園長

●私のグループでは、「出来ることなら夕食を親と食べて欲しい」という発言により親支援の視点からなぜ、園で夕食を提供しているか、という話になった。ギリギリの時間に迎えに来て、家でしつかり夕食を食べさせてやれるのか、親の負担やストレスが、子どもに影響するならば、親支援の視点で夕食を提供してもいいのではないか。画一的に線を引くことは出来ないが、多様な対応があってもいいのではないだろうか？

地域が違っても、夜間保育の目標や抱える悩みは共通するものが多い。それは今まで、夜保連で互いに高めあってきたからではないだろうか

*大阪・保育所保育士

●4園の発表会において、それぞれが夕食に様々な工夫が見られることが印象に残った。助言者の安梅先生の講演では、夜間保育がもたらす子どもへの影響は質の良い保育を提供すれば、しなやかに子どもは育つ。誰かが見守ってくれて受け止めてくれるという安心感が大事だという素晴らしい言葉を頂いた。

*宮崎・保育所主任保育士

「宮崎大会を運営されました、全国私立保育園連盟事務局の皆様、並びに宮崎で縁の下の力持ちとして、案内や記録などを担当いただいた方々に、心から御礼申し上げます！」

《新しいお仲間です》

☆エンジェル保育園

「大丈夫あなた一人じゃない。働くあなたを24時間サポートします。」

エンジェル保育園は、新潟県新潟市に平成22年に開所した昼間保育園です。昼間ですが、朝7時から翌朝7時まで、つまり24時間開所の昼間型保育園です。

《急な残業でお迎えの時間を過ぎてしまったことはありませんか？就業時間を保育時間が合わずに仕事をあきらめたことはありませんか？疲れていても休む暇がないと感じていませんか？どうして自分ばかりが...と思ったことはありませんか？

心配しないで。大丈夫！。あなたは一人じゃない！

エンジェル保育園があなたを包む「優しい手」になります



《新しい仲間へ》

☆きらら保育園

私たち、きらら保育園は福岡県で3園目、県南（久留米市）では初の夜間認可保育園として昨年10月に開園しました。

当園の方針として、めざす子ども像を「心身ともにたくましい子ども。やさしい思いやりのある子ども。あきらめない子ども。自らの思いを伝え、行動できる子ども。」保育目標を「子ども一人ひとり育ちにあった保育をする。家庭的な環境の中で保育をする。様々な経験を通して達成感や自己肯定感を養う保育をする。国籍に関わらず積極的な子育て支援を行う。働く保護者のニーズに応え夜間保育を行う。」として、地域に愛され、保護者の方々に信頼される保育園をめざし日々奮闘しています。

平成24年度は保護者参加型の行事として、餅つき、発表会、卒園式。子どもたち参加の行事ではクリスマス会、節分、雛祭り会、クッキングなど試行錯誤のなかで子どもたちの笑顔が輝いていました。思い返せば、発表会では、最後のフィナーレで子どもたちをはじめ、保護者、職員が一緒になって手遊びをしたり、第一回卒園式ではアットホームなほのぼの

とした雰囲気の中で1名の卒園児を送り出し、保護者から「短い間だったけど本当に成長したと思う。預けることが出来てよかった。」という言葉頂き職員一同涙したことを思い出します。6ヵ月という期間の中で子どもたちと共に職員も成長して自信につながりました。

この半年、わからないことがわからない中で周りの方にご指導や激励をいただき事故なく24年度を終えることができたことに感謝しています。

新年度がスタートし進級、入園児合わせて40名で4月1日に第一回入園式を行いました。平成25年度は保育内容の充実、職員の質の向上を図り、課題に1つ1つ真摯に向き合い、積極的に子育て支援を続け労働形態の多様化する時代の中で子育てしながら働く保護者に夜間保育園を広く知っていただき、きらら保育園が安全で安心できる場となり、家庭的な雰囲気の保育園にしていこうと職員一同、保育に研鑽をつみ実践して参ります。



《新しい仲間へ》

☆ゆたか第二保育園

平成25年5月に夜保連に加盟しました。群馬県伊勢崎市に平成25年3月11日に午後10時まで、定員45名の夜間保育所として開所しました。昼間保育園のゆたか保育園との併設です。

ゆたか保育園では地域のお年寄りとの遠足などの行事に取り組むなど保育園と老人ホームで地域福祉の向上を日々目指しています。



“よろしくお願ひします!”

祝！受賞

私たち全国夜間保育園連盟の加盟園である東京新宿のエイビイ保育園園長の片野清美氏が本年度、吉川英治文化賞を受賞され「ちなみに文学賞の受賞者は小池真理子氏」その贈呈式が4月9日東京の帝国ホテルで開催され、天久薫連盟会長が出席、お祝いを述べました。

「お祝いの言葉」

新宿の肝つ玉母さん、片野清美先生、吉川英治文化賞のご受賞おめでとうございます。先生は長い無認可保育園時代を経て、平成13年、東京では認可保育園として初めての究極の夜間保育、24時間保育のエイビイ保育園を片野仁志理事長と共に開設されました。

【中略】

24時間保育とは、一日中子どもを預かりっぱなしにするという意味ではありません。保護者の働く時間に合わせて、24時間いつでも

預かれる保育体制にしておくという意味です。その結果として、一日中開園していることになるのです。

制度上の夜間保育園は、子どもの処遇も保育士の処遇も、昼間保育園と同じなので、創設されて30年以上もたつというのに、全国にまだわずか70数箇所しかありません。東京においても深夜にいたる認可夜間保育園はエイビイ保育園一つだけです。

これからも眠りにつくことのない大東京で、希望の光をともし灯台として、24時間保育を実践していけますよう、そしてまた、願わくは同じ志をもつ夜間保育園が少しでも多く誕生すること期待しながら、ご受賞をお祝い申し上げます。



《お知らせとお願い》

全国夜間保育園連盟が設立されて、30年が経過しました。30周年を記念して、連盟では二つの大きな取り組みを計画しています。

一つは、例年行われています「経験交流研修会」を、今年度は30周年記念大会として、夜間保育発祥の地京都で開催します。地元の夜間保育園と開催実行委員会を立ち上げ、準備を進めています。

また、この大会で、これまで長年夜間保育の発展に尽力された方及び、保育実践を重ねておられる方を表彰し、その功労を労いたいと検討中です。

二つ目は、園長総会で提案されました、「夜間保育の実践を世に問う」本を京都の北大路書房から出版することになりました。来年2月に京都で行われる、第25回全国夜間保育園経験交流研修会《全国夜間保育園連盟設立30周年記念大会》を出版したいと、編集会議を重ねております。

原稿執筆や写真・資料の提供など、会員園の皆様の協力なしには進められません。ご協力よろしくお願ひします。

《発刊趣旨》

夜間保育園《連盟》の30年にわたる活動の社会的意義や各園の取り組みを振り返り、そのことにより今後ますます夜間に保育を必要とする家族が増えること予測される時代。子育て支援や家族関係のあり方を考える一助にしたい。その目的は、夜間保育制度の現状や方法の参考になることがらや、新たな保育制度の中でも社会的に果たすことが期待されているものなどを明らかにしていきたい。

これまでの全国夜間保育園連盟に加盟されている保育園の実践を相対的に振り返ると同時に、その課題などの探求を通じて多くの保育関係者の日々の実践を振り返る参考になることを狙いとしている。

《事務局通信》

残暑お見舞い申し上げます。

毎日のように天気予報で、今まで経験したことのないような…暑さや大雨の警報を流しています。熱中症にも充分御気をつけ下さい。

事務局は、来年2月の経験交流研修会と《夜間保育》出版に向けて、忙しい夏です。

子ども・子育て会議も大詰めのようにです。長年、積み重ねてきた「夜間保育」の実践を今こそ、世に問うときではないでしょうか…